

vol.45-6 (通算 507号)

2015年9月号

やどかり

2015年9月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 土橋 敏孝

〒337-0043

さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円 (含会費)

戦後70年 障害者と戦争

～差別と抑圧の歴史の中で～

終戦から70年目を迎えた今夏、安倍内閣は、違憲の疑いが強いとされる安全保障関連法案を強行に成立させようとしている。国際平和支援法と10の法を一括にした平和安全法制整備法で、成立すれば自衛隊の活動範囲が拡がり、憲法9条によって違憲とされていた集団的自衛権の行使とともに、日本が世界中の戦争に突入していくことが可能になる。それは即ち、戦争のできる国への変貌だ。

閣議決定された5月から、連日国会前では法案成立反対の声をあげる人たちが増え、全国各地で反対集会が開かれ、世代を越え、立場を越え、運動の広がりを見せている。平和憲法をなし崩しにされる危機感が、多くの人たちを突き動かしている。

かつて第2次世界大戦中、ナチス政権下のドイツで、30万人にも及ぶ障害のある人が虐殺された事実がある。劣った遺伝子をもっている、働く能力がない、治療の効果がないとされた知的障害や精神障害のある人が、ドイツ全土6か所の精神病院に作られたガス室に送られた。「T4作戦」と呼ばれ、国家政策として秘密裏に行われた障害のある人の大量抹殺、安楽死プログラムである。ガス室は最も効果的な殺害方法として作られ、1日120人、毎日障害のある人が送られた。そして、この虐殺がユダヤ人の大量虐殺へとつながる。

当時ナチスは、ドイツ民族を最も優れた民族とする優生思想に基づき、ユダヤ人や障害のある人、遺伝性の病気のある人を“生きている価値がない”として迫害した。「T4作戦」は、ユダヤ人虐殺のリハーサルだったと言われている。いつの時代も、時の権力によって真っ先に切り

捨てられていくのが、障害のある人や弱い人たちのいのちだ。

しかし、これは遠いドイツの話ではない。日本でも、障害のある人は戦時中、“穀潰し”“非国民”とさげすまれ、抑圧されてきた。障害のため兵隊となつて戦えず、国家の米食い虫と言われ、“生きている価値がない”と差別された。「障害のある子は戦争の邪魔になるから殺せ」と青酸カリを渡されたり、米軍の攻撃から逃げる時、「足手まといになるからおいていけ」と、そのいのちを軽んじられた。戦争は、障害のある人にとって差別と抑圧の記憶でもある。

多くの市民が犠牲になった沖縄でも、その悲惨な戦争体験に今なお苦しんでいる人たちがいる。精神科医の蟻塚亮二さんは、沖縄戦の後60年以上を経過して発症する晩発性PTSDを見つけた人だ。晩年になって戦争の記憶がよみがえるこの精神疾患は、戦争が戦後もなお長きに渡って障害のある人を生み出し、苦しみをもたらす事実を現している。蟻塚さんは、「沖縄戦は今も終わっていない。戦後は果たしてあったのか」と問う。そして、「戦争は障害者をつくり出す。同時に戦争は障害者を殺す」と重く投げかけている。

障害のある人の生きる権利は、平和な社会があつてこそ保障される。「戦争に限らず、どんな事象にも始まりがある。その前触れを察知すること。過去の事実を知るため、コトの本質を知るため、未来を見つめるため、こころの目を見開こう」。JD(日本障害者協議会)代表藤井克徳さんの言葉だ。平和な社会が壊されようとしている今、私たちはこの事実に向かい合わなくてはならない。